

IRレポート 会社説明会 説明要旨

---

会 社 名            三光産業株式会社（7922）

---

説明内容            平成19年3月期第3四半期決算概況と今後の経営戦略

開催日時            平成19年2月22日（木）  
午後4時 - 5時

開催場所            鉄鋼会館 7階ホール

出席者            代表取締役社長                    山原 剛之  
専務取締役                        猿谷 武  
常務取締役                        樋渡 正弘  
取締役                                平井 孝正

参加者            セルサイドアナリスト  
バイサイドアナリスト、ファンドマネージャー  
株式業界紙記者 他

目 次            I. 会社概要  
                  II. 2007年3月期 第3四半期決算報告  
                  III. 今後の展開

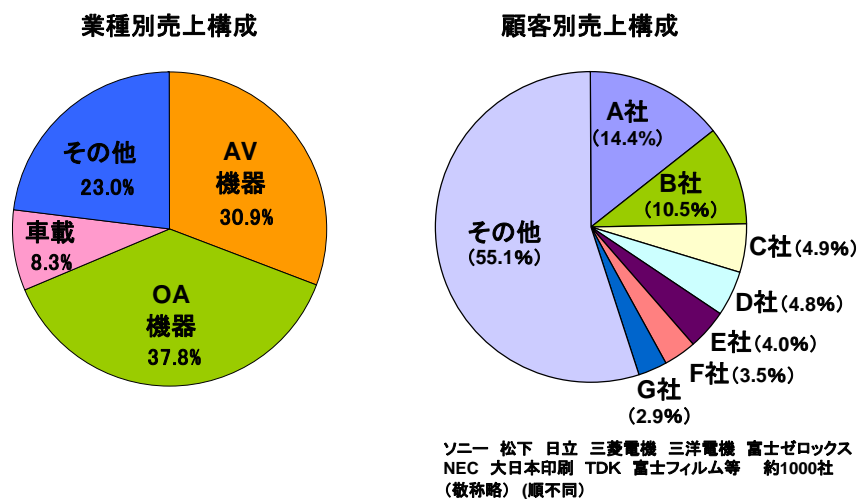
## I. 会社概要

当社は、接着剤付きのラベル・ステッカー等の特殊印刷製品の製造・販売を行っております。資本金は18億5千万円、関係会社として三光プリンティング、サンコウサンギョウ（マレーシア）、光華産業有限公司（香港）がございます。従業員数はグループ全体で639名でございます。

### ○当社の売上構成

業種別の売上構成は、AV関連機器が30.9%、OA機器関連が37.8%、車載関係が8.3%となっております。また、顧客別の売上では、ソニー・松下・日立・三菱電機・三洋電機・富士ゼロックス・・・と、大手の家電・OA機器メーカーが上位を占めており、1000社を超える取引先がございます。

2006年3月期



### ○当社の製品について

一般的なラベル製品からスタートし、今では月間4万種類の製品を取り扱っており、非常に少量多品種の製品を提供しております。また、製品の納入サイクルも非常に短くなっておりますので、当社ではお客様のラインに直結して製品を納入する体制を構築しております。

最近当社の売上で大きなウェイトを占めているのは、DVD・携帯電話・パソコン・デジカメ向けの製品です。

### ○生産拠点

生産拠点についてですが、まず国内では方南工場、千曲川工場、川越工場、大阪工場の4カ所と子会社の三光プリンティング、海外においては、マレーシアと中国の深圳に工場を設置しております。マレーシアは昭和63年、深圳は平成15年に稼働しております。

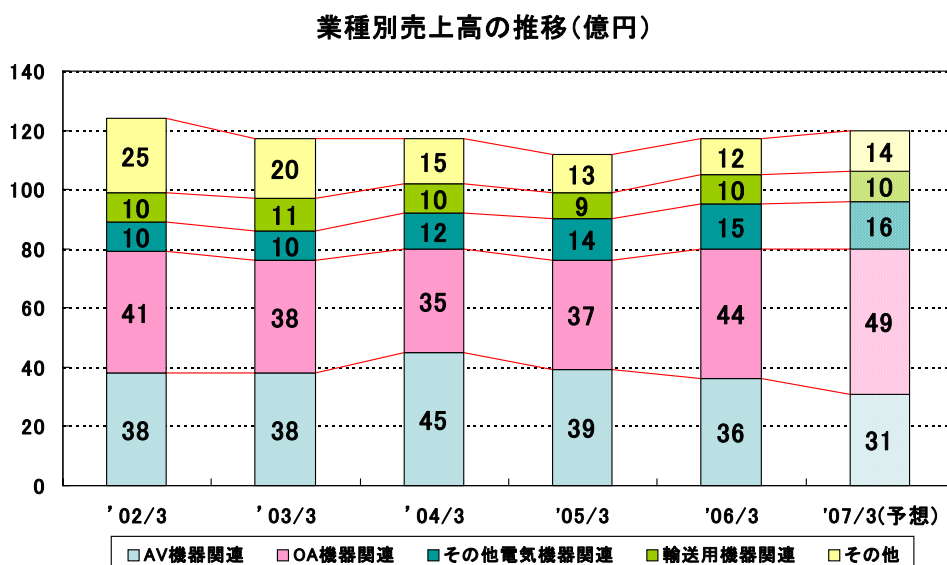
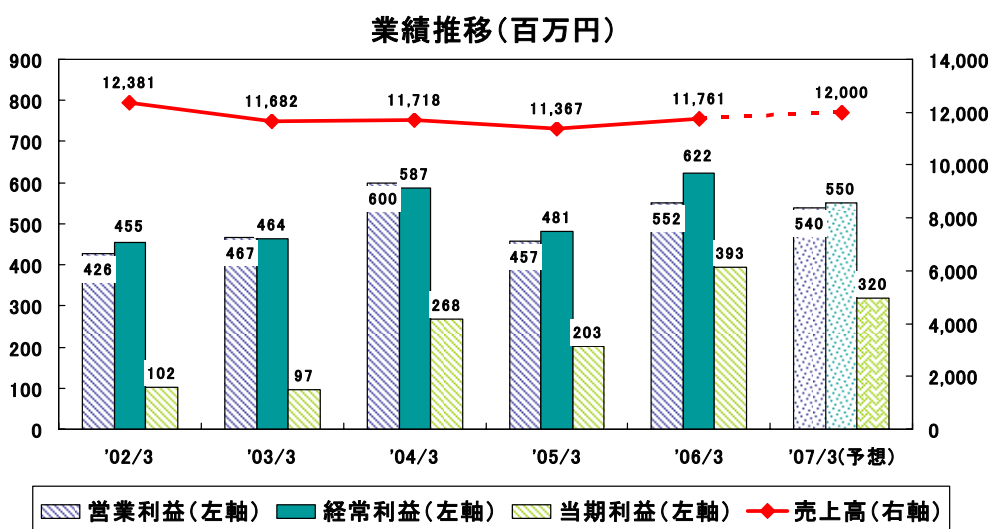
○当社の強み

まず、主要な取引先である家電関係・OA関係・それに付随する部品関係といった業種とは、全て直取引を行っております。これにより製品の市場投入情報及びメーカー間の横展開という面で、非常に優位性を保てるというメリットがございます。

次に、お客様の様々な要求に応じることができる体制です。当社では幅広い印刷方式や加工技術を装備しているとともに、特殊な技術を持っている成型メーカーや蒸着メーカーと協力して製品を提供する体制を整えています。

○業績推移

売上高につきましては、最近はやや横ばいで推移しております。また利益面においては、社内的な合理化などにより若干改善してきております。前2006年3期は、携帯電話やデジカメ向け製品の拡大により、3%増収となりました。また製造コストの引下げが進んだ



ことや営業外では為替差益もあったことから、経常利益は29%増益となっております。

また最近の売上高が横ばいで推移しているのは、主に取引先業界の生産の海外移転および生産拠点における現地調達化の進展によるものと認識しております。現状当社では国内の売上が9割を占めておりますが、こうした変化に対応しつつ、国内売上を伸ばした上で、海外の比率を高めていきたいと考えております。

業種別売上高については、AVは海外への生産移管が進みオーディオやVTR関係を中心に減少が続いています。一方OAにつきましては、デジカメもメーカーによっては海外で高い技術を有するところもありますが、まだ国内生産中心で、当社への受注も増加しております。また、その他の売上高が年々減少しておりますが、子供向けのカードや玩具向けの製品を提供しており、その分野での市場の縮小と中国からの輸入増加の影響によるものと認識しております。

## Ⅱ. 2007年3月 第3四半期決算報告

### ○第3四半期決算概要

今2007年3月期の第3四半期の概要ですが、携帯電話機やデジカメやその付属機器の需要は増加しておりますが、オーディオ関係が減少しているため、連結売上高は前年同期比2.2%減となりました。

また利益面においては、営業利益が444百万円(18.1%減)、経常利益が460百万円(22.6%減)、純利益は270百万円(30.1%減)となっております。加工分野での生産効率の向上、コストダウンを進めておりますが、市場価格の低下を吸収しきれず、売上総利益率は0.3ポイント悪化いたしました。

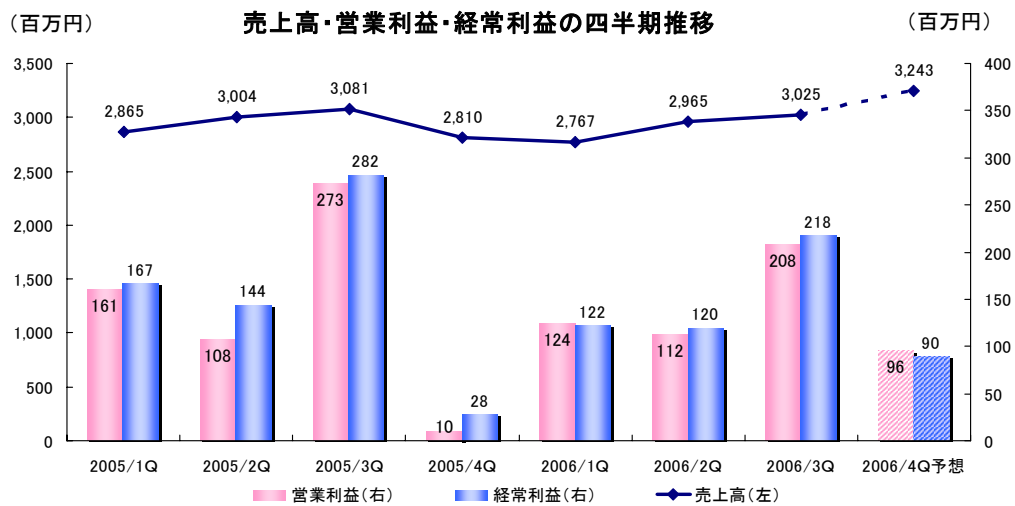
通期の計画については、中間決算発表時に公表した業績予想を変更しておりません。売上高120億円、経常利益は550百万円を予定しています。引き続き携帯電話等の受注が堅調で、利益面では一層の合理化を進めることで、前期並みの売上総利益率(19.8%)を堅持したいと考えております。また、中国深圳工場が好調で、今期増収増益の最大の要素となりそうです。

単位:百万円,%

	06/3期 1~3Q累計		07/3期 1~3Q累計		07/3 通期計画	
	金額	構成比	金額	構成比	金額	進捗率
売上高	8,951	100.0	8,758	100.0	12,000	73.0
AV機器	(2,891)	(32.3)	(2,467)	(28.2)	(3,100)	(79.6)
OA機器	(2,813)	(31.4)	(3,307)	(37.7)	(4,900)	(67.5)
その他電気機器関連	(1,528)	(17.1)	(1,286)	(14.7)	(1,600)	(80.4)
その他	(1,717)	(19.2)	(1,696)	(19.4)	(2,400)	(70.7)
売上総利益	1,840	20.6	1,777	20.3	2,380	74.7
営業利益	542	6.1	444	5.1	540	82.2
経常利益	594	6.6	460	5.3	550	83.6
(当期)純利益	386	4.3	270	3.1	320	84.4

○四半期業績について

10～12月の第3四半期の業績は、携帯電話やデジカメ、パソコンなどが好調に推移いたしました。また、中国の子会社である光華産業の業績が順調に伸びており、連結ベースで今後売上高、利益を相当押し上げていくことになろうかと思っております。



○バランスシート

第3四半期末の財政状態ですが、総資産は14,578百万円で、中間期末から155百万円増加しております。純資産は162百万円増加して、11,621百万円となり、自己資本比率は77.7%という状況でございます。

	07/3 中間期末	07/3 第3四半期末
<b>流動資産</b>	<b>(8,326)</b>	<b>(8,372)</b>
現金及び預金	3,506	3,331
売上債権	3,918	4,067
棚卸資産	752	846
その他流動資産	149	126
<b>固定資産</b>	<b>(6,096)</b>	<b>(6,206)</b>
<b>資産合計</b>	<b>(14,423)</b>	<b>(14,578)</b>
<b>流動負債</b>	<b>(2,621)</b>	<b>(2,621)</b>
買入債務	2,097	2,313
その他流動負債	523	308
<b>固定負債</b>	<b>(342)</b>	<b>(335)</b>
退職給付引当金	173	165
その他固定負債	169	170
<b>負債合計</b>	<b>(2,963)</b>	<b>(2,957)</b>
株主資本	(11,192)	(11,306)
評価・換算差額等	(Δ3)	(27)
少数株主持分	(270)	(288)
<b>純資産合計</b>	<b>(11,459)</b>	<b>(11,621)</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>(14,423)</b>	<b>(14,578)</b>

### Ⅲ. 今後の展開

#### ○業界動向

当社が関連している業界の状況ですが、まず、製品のライフサイクルが短くなっており、製品価格も低下しております。また、ローエンドモデルの商品は、国内から中国・東南アジアといった海外に生産シフトしております。さらに、部品の現地調達化の流れも強まっております。一方、デジカメやカーナビ、液晶テレビ等のハイエンド機種、付加価値の高い製品や技術力を必要とするものは、国内に残っているのが現状だと認識しております。

#### ○基本戦略

こうした観点から、当社の課題としては、メーカーの海外展開への対応ということがまず挙げられます。あわせて、当社では売上の9割を占める国内ビジネスをどう活性化していくかということが、今後の戦略の中で大きなウェイトを占めると考えております。

これらの点に対応するため、基本戦略として、中国展開、成型品の拡大、国内新市場の開拓という3点を掲げております。

#### ○中国展開

第1の中国展開ですが、当社では平成15年に深圳工場を立ち上げました。現在では日本と同じく、シール、シルク印刷、間欠輪転、ロータリーといった設備を有しておりますが、いずれもフル稼働の状態です。新たに深圳に第2工場（燦光電子有限公司）を現在建設中です。

同工場では、全製造工程をクリーンルームで行うことで、コスト競争ではなく、付加価値で差別化していこうと考えております。また欧州RoHS指令に対応すべく、有害物質を検査する装置も導入しております。

拠点に関しては今後、多くの日本メーカーが進出している上海や北京などでの展開を、検討していこうと考えております。

#### ○成型品の拡大

携帯電話の亚克力窓やDVDレコーダーに使用される亚克力板などは、今非常に伸びている分野ですが、蒸着、成型といった技術において協力工場とともに事業を進めております。

最近では、亚克力に変わってガラスを使用する動きが出てきており、当社でもガラス加工技術と印刷技術の結合を1つのテーマとして取り組んで参りました。その結果、今期大手家電メーカーのDVDレコーダーへの納入を実現できました。

### ○国内新市場の開拓

アミューズメントや玩具景品分野においては、少子化や中国製品の大量流入といったこともあり、厳しい状況にあります。オリジナル商品を製造しておりますが、今後ターゲットの絞り込みを行い、再生を図りたいと考えております。

もうひとつ、昨年発売したサニービジョンですが、まだまだではあります在今后積極的に営業展開を進めてまいります。

### ○中期目標

以上のような事業展開のもと、2010年3月期の目標として、年率3%の売上成長と、営業利益率5%の確保を目指していきたいと考えております。

以上